毒キノコに注意しましょう!!

自然環境が豊かな日本では、多くのキノコが観察されます。天然には約5000種類のキノコが存在し、その内の約50種類が、中毒を起こす毒キノコと言われています。このため、不用意に野生のキノコを食べて中毒となる事故が毎年多発しています。

厚生労働省の統計によると、キノコ食中毒の患者は過去５年間で約850人、死亡者９人と報告されています。

毒キノコによる食中毒の大部分は、毒キノコを自己判断で誤って鑑定して食べた結果発生しています。

＜注意点＞

1　知らないキノコは、「絶対に採らない、食べない、人にあげない」ようにしましょう。

2　さまざまな言い伝えは「迷信」であり、信じないようにしましょう。

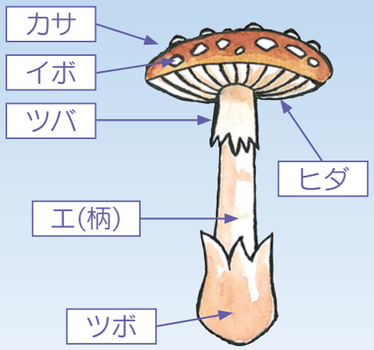
迷信の例

×柄が縦にさけるものは食べられる

×虫が食べているキノコは食べられる

3　図鑑や写真や絵にあてはめ、自己判断で鑑定しないようにしましょう。

キノコの各部の名前



食中毒事例の多いキノコ

ツキヨタケ

夏～秋、ブナなどの枯れ木に多数重なりあって生え、食用のシイタケやヒラタケに似ています。

柄はほとんど側方につき、縦に割るとカサのつけ根に黒いシミがあります。

カサを裏返して暗所に置くとほのかに蛍光色を発します。

かさのつけ根のしみ

クサウラベニタケ

夏～秋にかけて広葉樹林内に群生します。食用のシメジ類やウラベニホテイシメジと似ています。カサは径３～８cm。鐘形から扁平に開きます。表面は平滑でねずみ色で、ウラベニホテイシメジのような銀色の微細模様はなく、乾けばロウを塗ったような絹糸状の光沢があります。ヒダは肉色(ピンク色)になります。柄は白色中空、肉は白色粉臭があります。柄を縦に裂いていくと、カサがぽろっと取れ、全体にもろい感じがします。

※写真は「食と健康」（日本食品衛生協会発行）及び「福岡のきのこ中毒」（福岡きのこ友の会発行）より抜粋。

ドクツルタケ

夏～秋、針葉樹林や広葉樹林内の地上に生え、食用キノコのウスキモリノカサやハラタケに似ています。白一色のキノコでカサは径５～15cmで、卵形から釣鐘～円錐形～中高で平らに開き、平滑で湿っているときは粘性があります。ヒダはやや密。柄の上部に膜質のツバがあり、その下は繊維状のささくれに覆われ、根もとには袋状の大きなツボがあります。

これとよく似たシロタマゴテングタケも同様に猛毒のキノコです。

食後６～24時間後に急に激しい腹痛、嘔吐、下痢が起こり、４～７日後に肝臓の肥大、黄疸、胃腸の出血などの症状が現れます。キノコ中毒で最も死亡例が多い。

ニガクリタケ

カサは径１～５cm。

半球形からほぼ平らに開き平滑。

表面は湿り気を帯びて硫黄色で、中央部はやや黄褐色。

ヒダは密、オリーブ色から暗紫褐色になります。

肉は黄色で強い苦味があります。柄はカサと同色で、下方は橙褐色。針葉樹、広葉樹の切り株、枯れ木に束生、群生します。

食後数十分から３時間ほどで腹痛、嘔吐、悪寒、下痢などが起こり、脱水、けいれん、ショックを経て死亡することもあります。

ニセクロハツ

カサは径５～11cm、まんじゅう形から中央のくぼんだ平らになり、のちにじょうご形になります。表面は灰褐色～黒褐色で乾燥し、ビロード状で周辺部は淡色。肉は堅く締まり白色。傷ついた部分が空気にふれると食べられるクロハツは黒変するが、ニセクロハツは赤変します。ヒダは直生、やや垂生し、幅広くて荒い。柄は上下同径か下方がやや細い。ブナ科の樹下に発生します。食後数十分で嘔吐、下痢などの胃腸系の中毒が起こり、その後言語障害、血尿などの症状が現れ、心臓衰弱により死亡することもあります。

平成20年９月　福岡市内で毒キノコによる食中毒事故が発生しました！

平成20年９月、女性が公園で採取したキノコを自宅で調理して食べたところ、激しい腹痛、嘔吐、下痢等を発症し、病院で受診しました。

原因は、ニセショウロという毒キノコでした。

ニセショウロは、形状は球形～偏球形で、径２～３cm。表皮は単層で１mm以上あり、切断すると淡紅色に変色します。夏～秋に林内の砂地や荒地に生息します。

断面